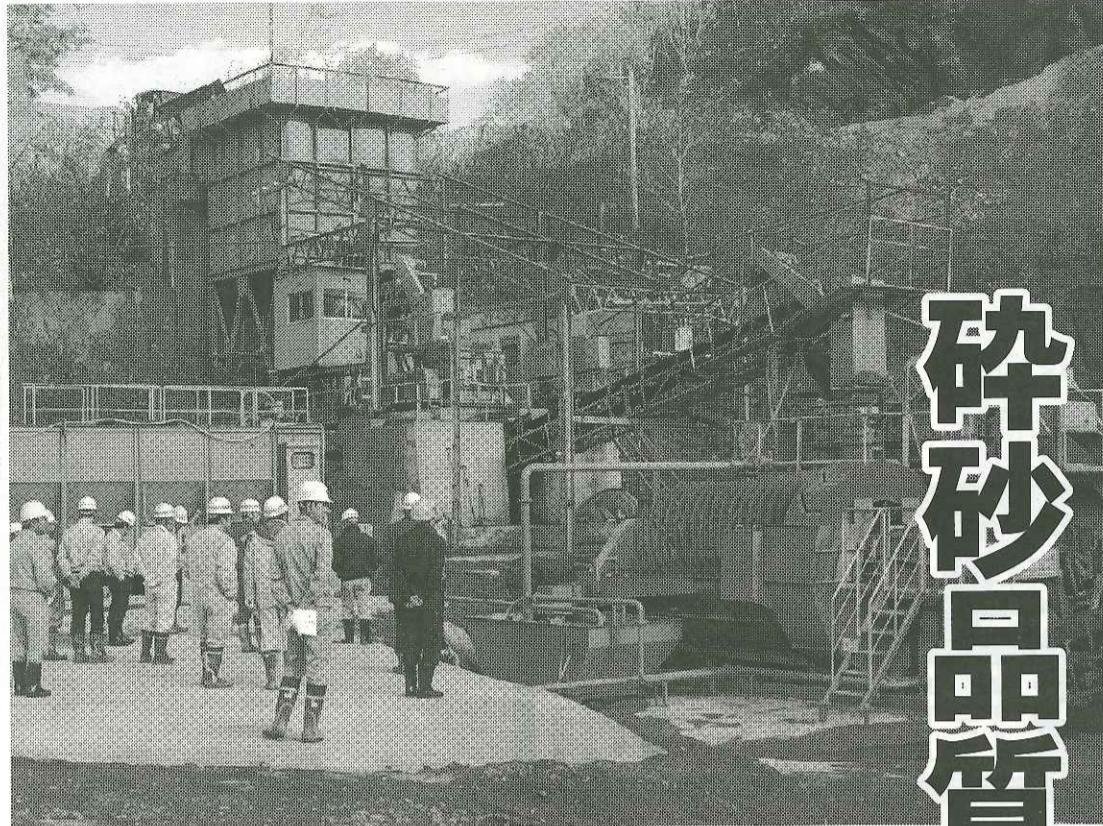


微粒分量の管理方法などの質問が相次いだ



システムを通した碎砂



源田茂男専務理事

碎砂
100%
で
生コン生産

奈江採石協同組合の源
田茂男専務理事は、「省
水分級システムは、使
水量が少ないうえ微粒分
量が安定する文句の付け
ようのないシステム」と
評価。

「碎砂製造で最も重要
なことは、売れる製品を
評価。」

在、セメント量を減らし
生コンの試し練りを行っ
ている」と現況を説明し
た。

つくること。製造工程は
原石を割って洗うという
単純なものではない。原
石の物理性(組成)を考え
設備しないと、売れる製
品にはならない」と強調
した。

「取引先の生コン工場
では、システムを通した
碎砂(100%)で生コン
の試し練りを40回以上
行った。品質について
は、天然砂以上との評価
をいただいている。現
在、セメント量を減らし
生コンの試し練りを行っ
ている」と現況を説明し
た。

脱水ケーリー
土壌改良材に

同システムに投入する
碎砂は、同組合の奈江事
業所(富良野町奈江)で
採掘した原石(玄武岩)
を破碎・選別したもの。
環境負荷低減と最適な摩
擦を考慮し設備した「パ
イプシユートシステム」
は、優れた品質の碎石・
碎砂製造の要となっていた
る。碎砂は生コン用(3
・5~0%),トンネル
吹き付け用(5~0%)
の2種を製造する。

源田専務理事は導入経

碎砂品質向上と 生産コスト低減

碎砂品質向上と 生産コスト低減

省水分級システム 見学会を開催

氣工社

省水分級システムは、
分級機「ハイメッシュセ
パレーター」を中心構

現場のニーズ
を反映



川手雅嗣社長

温式分級システム。水使
用量は従来機と比べ4分
の1/5分の1。分級点
は200メッシュで、微
粒分量を5%前後に安定
する。すでに10台が全国
の碎石場、砂利プラン

所(北海道富良野市)で省水分級システムの見学会を開催
した。参加者は、従来機との違い、微粒分量の管理方法、
同システムを通した碎砂の品質について質問するなど、高
い関心を示した。

氣工社(本社・神奈川県藤沢市、川手雅嗣社長)は10月
26日、奈江採石協同組合(高瀬秀樹理事長)・島の下事業
所(北海道富良野市)で省水分級システムの見学会を開催
した。道内の碎石場や氣工社の特約販売店から28人が参加
した。参加者は、従来機との違い、微粒分量の管理方法、
同システムを通した碎砂の品質について質問するなど、高
い関心を示した。

ト、石灰石鉱山で稼働し
ており、北海道では2台
目となる。

冒頭、あいさつで川手
社長は、「省水分級シス
テムは、09年のJIS
A5005の改定(製品

微粒分量の上限値2%
緩和で9%)にとともに
い、安定した微粒分量の
維持と使用水量の大幅削
減を目的に開発した。現
場のニーズをさらにシス
テムに反映し、碎砂の品
質向上と生産コスト低減
に貢献していきたい」と

話した。

水6~8割を
循環

ノダード)を投入。碎砂と
洗浄水に付着した微粒分
量は13%前後。投入水量は
約160m³/時で、6~
8割を循環させる。高濃
度となった循環水に清水
(湧き水)を補給し、分
級機「ハイメッシュセ
パレーターKUO-1305

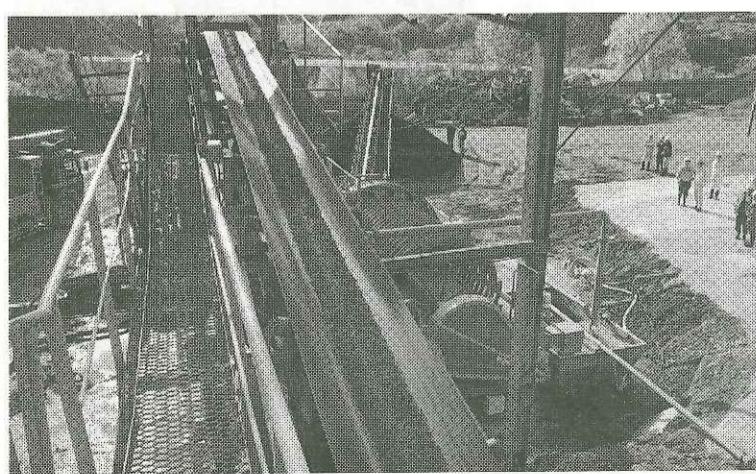
S」から排出される水の
濃度を管理する。碎砂に
付着する微粒分量(付着
水微粒分量)の多少によ
り、投入水量、投入碎砂
量をコントロールする。

分級機から排出される水
量は120m³/時で、循
環水量(乾土量)2ト/時
と説明した。

勝村直樹技術主任は、
「乾式による碎砂製造
は、微粒分量が天候に左
右される。また、温式
は、微粒分量を安定させ
るため、大量の水を必要
とする。省水分級シス
テムは、分級機「ハイメ
ッシュセパレーター」で水
を循環させ高濃度分級を
行う。濃度管理しながら
省水分級を行い、微粒分
量を5%前後に安定させ
る。島の下事業所では、
水洗しながら振動篩いで
筛分けた碎砂(3ミリ)



従来機との違いを説明



ベルトコンベアを流れる原砂(碎砂)とハイメッシュセパレーター(中央)